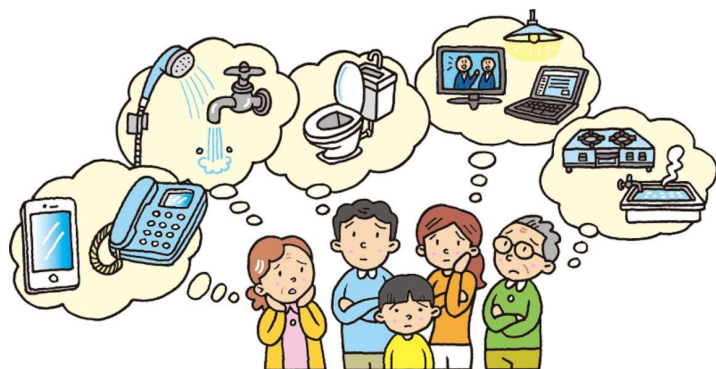


岡山市の災害リスクといざという時の行動

1 大地震の恐怖

●大地震が起きたら・・・

世界有数の地震国である日本は、昔から地震による多くの被害を受けてきました。平成以降には、阪神・淡路大震災、新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震などの大きな地震がありました。



もしも大地震が起きたら、日常生活にも大きな影響が予想されます。水道や電気、ガス、電話などが使えなくなったり、自宅に住めなくなったりする可能性があります。災害が起きたときにどうやって身を守るか、何を準備しておいたらいいか、今のうちに確認しておきましょう。

東南海、南海、東海地震の発生年表

西暦	東南海地震	南海地震	東海地震
1605年			■慶長地震(M7.9)
1707年		↑102年	■宝永地震(M8.6)
1854年		↑147年	■安政東海地震(M8.4) ■安政南海地震(M8.4)
1944年	↑90年	↑92年	■昭和東南海地震(M7.9)
1946年	↑81年	↑79年	■昭和南海地震(M8.0)
2025年			



災害が起きたときどうするか
家族や地域の人と話し合ってみましょう！



●南海トラフ地震について

駿河湾から日向灘沖までのプレート同士が接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。この南海トラフ沿いのプレート境界域を震源とする大規模な地震が「南海トラフ地震」です。南海トラフ地震の発生には周期性があり、地震の周期は概ね100～150年です。東海地震については、前回の地震が起きてから150年以上が経過していることから、今後30年以内に80%程度の確率で発生するとされています。「南海トラフ地震」が発生した場合、岡山市では**最大震度6強**、最大の津波の高さは**2.6m**と想定されています。

●南海トラフ地震臨時情報が発表された時の防災行動

気象庁が南海トラフの想定震源域等で異常な現象を観測
→個々の状況に応じて避難等の防災対応を準備・開始

地震発生後の時間経過	気象庁が 南海トラフ地震臨時情報(調査中) を発表		
	地震発生から最短2時間後	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)
(最短)2時間程度 ~ 1週間	巨大地震警戒対応 ●日頃からの備えを再確認 ●避難の準備を整える。避難が間に合わない要配慮者等は避難する等、状況に応じて自主的に避難する。 ●津波からの避難が間に合わない地域は1週間の避難を継続(※岡山市内は対象地域なし)	巨大地震注意対応 ●日頃からの備えを再確認	●地震の発生に注意しながら、通常の生活を送る。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意。
1週間～2週間	巨大地震注意対応 ●日頃からの備えを再確認	●地震の発生に注意しながら、通常の生活を送る。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意。	
2週間以降	●地震の発生に注意しながら、通常の生活を送る。ただし、大規模地震が起きる可能性がなくなったわけではないことに留意。		

岡山市の災害リスクといざという時の行動

地震発生時の行動 (家庭の場合)

※これは一例です。
身の危険を感じたら、
直ちに避難しましょう。

0 緊急地震速報 発表

- テレビやラジオなどで放送されるほか、携帯電話・スマートフォンなどに発信されます。



1 頭を守り、安全確保

- クッションやバッグ等、身近にあるもので頭を守る。
- 机の下などにもぐり、机の足を持つ。
- あわてて外に飛び出さない。

身近なもので
頭を守り、
揺れが収まるのを
待ちましょう。



5 情報を確認し、避難する

- 震源、津波注意報・警報を確認する。
- 津波警報発表中は高台に避難し、絶対に低地に戻らない。
- 非常持出品を持って指定の避難所へ移動する。
- 外へ出る際には落下物に注意する。
- 車は使用しない。
- 落ち着いて、忘れ物がないように注意する。
- 戸締まりをしっかりと行う。



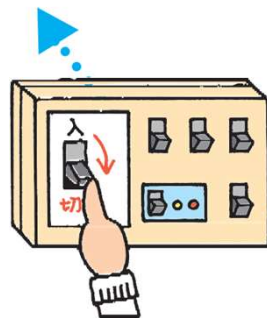
2 逃げ道を確保する

- 揺れが収まったら、ドアや窓を開けて、すぐ逃げられるように逃げ道を確保する。
- ガラスの破片等が落ちているので、靴やスリッパを履いて移動する。



4 電気の ブレーカーを切る

- 漏電などによる火災を防ぐ。
- ※感震ブレーカーを設置しておけば、揺れを感知して自動的にブレーカーが切れる。



3 火を止める

- 火を使用中なら、火を消しガスの元栓を閉める。(無理して火を消そうとしない。揺れが収まってから火を消す。)
- 出火していたら、初期消火を行う。



オフィスなどの場合

- コピー機、パソコンなどOA機器や什器などが移動してきたり、倒れたりして危険です。机の下に潜り、頭を守りましょう。
- 地震が収まったら、決められた避難マニュアルに従い行動しましょう。



エレベーターの場合

- 全ての階のボタンを押して最初に止まった階で降りましょう。
- 閉じ込められたら非常用のインターホンで連絡しましょう。



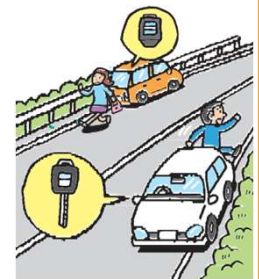
市街地の場合

- 窓ガラスや看板などの落下物に気をつけましょう。
- カバンなどで頭を守りながら、安全な場所に移動しましょう。



運転中の場合

- ハザードランプを灯して、ゆっくりと左側に停車しましょう。
- 車から離れるときには、ドアをロックせずにカギを付けたままにして、車検証を持って避難しましょう。



岡山市の災害リスクといざという時の行動

2 風水害・土砂災害

※これは一例です。
身の危険を感じたら、直ちに避難しましょう。

大雨の情報が発表されてから避難するまでの流れ

早め早めの行動が命を守る

テレビ、ラジオ、気象庁のホームページなどで最新の防災気象情報を収集するように心掛け、段階的に発表される「注意報」や「警報」を活用して、早め早めの安全確保行動をとるようにしましょう。避難の情報が出たり、危険と感じたりしたら、直ちに避難しましょう。



1 最新情報を随時確認

テレビ、ラジオ、インターネット、防災情報メール等で常に最新情報を確認しましょう。

主な防災気象情報

- <警報・注意報> ※警戒レベルについては25ページ参照
 - 注意報…災害が起こるおそれがあるとき
 - 警報…重大な災害が起こるおそれがあるとき
 - 特別警報…数十年に一度の豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっているとき
- <土砂災害警戒情報>

大雨警報が発表され、土砂災害の危険度が高まった場合に、気象台が都道府県と共同で発表します。
- <記録的短時間大雨情報>

土砂災害、浸水害、洪水害の危険度分布で「危険（警戒レベル4相当）」以上が出現し、さらに記録的短時間大雨情報の基準に到達した市町村に対して、気象台が発表します。

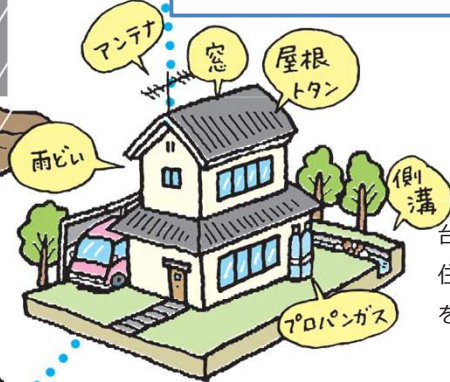
「自分だけは大丈夫」と安易に判断して様子を見ず、早め早めの避難を!



5 「警戒レベル4 避難指示」が出たらすぐに行動

避難に時間を要する人は、「警戒レベル3高齢者等避難」が出たら、避難を開始しましょう! 「警戒レベル4避難指示」で、全員速やかに避難しましょう! 「まだ大丈夫」と判断せず、すぐに避難をしてください。

※警戒レベルについては25ページ参照



2 住まいへの備え

台風・風水害に備えて、早めに住まいやその周辺の整備・点検をしましょう。

警戒レベル5 緊急安全確保
外出することで、かえって命に危険が及ぶような状況の時は、屋内の2階以上（土砂災害のおそれがある場合は斜面と反対側の部屋）へ緊急的に一時避難をし、まずは身の安全を確保してください。

4 非常持出品の用意

停電・断水や避難に備えて、非常持出品の確認をしておきましょう。



3 危険箇所や避難経路、避難所の確認

岡山市のハザードマップで、周辺の危険箇所や避難経路、避難所を確認しておきましょう。



岡山市の災害リスクといざという時の行動

避難時の
服装

非常持出袋は、
背負って走れるぐらい
の重さにしよう。



マスクの着用、
除菌シート・体温計などの
感染症対策物品を用意
しましょう。

子どもにも子ども用の
非常持出袋を用意する

子どもには
迷子札を
付ける

手袋（軍手など）
を着用する
：ガラスの破片
などによる手の
けがを防ぐ



ヘルメットや防災ずきんを
かぶる

：頭を落下物などから守る

非常持出品は
リュックに入れて
背負う

：両手が使える
ようにする
（非常持出品に
ついては15ページ
参照）

服装は長袖、
長ズボンを着用する
：材質は燃えにくい
木綿などのものを

降水時は
雨カッパを着用する
：避難後の着替えも
携行

靴は底が厚くて丈夫な、履きなれたものを履く
：長靴は中に水が入って歩きにくくなるため避ける

避難所での
生活

1 避難所はみんなで協力して運営しましょう

避難所は避難者同士で協力して運営します。食料の分配やトイレ掃除など、役割分担をして助け合いましょう。



2 避難所内ではお互いに譲り合いましょう

避難所では、様々な立場や価値観を持つ人が共同生活を送らなければなりません。避難所ごとのルールやマナーを守って生活しましょう。



3 要配慮者への配慮をしましょう

避難所には高齢者、障害のある人、妊産婦、乳幼児などの配慮が必要な方がいます。それぞれの特性に合わせて、専用のスペースを設けるなどの配慮や援助をしましょう。



4 誰もが安心して過ごせる避難所づくりをしましょう

過去の災害時には盗難などの被害や、女性や子どもに対する暴力や性犯罪などが発生しています。犯罪から身を守るために、複数人で行動する、人気のない場所を避けるなど一人ひとりが気を付けるほか、犯罪を起こさせないために避難所全体での環境づくりや防犯意識を高める対策を行いましょう。



5 <支援者の方へ> むやみに物資を送らないようにしましょう

個人からの支援物資の受入は非常に手間がかかり、被災地に負担をかけます。義援金を送るなどの対応を考えましょう。